

## PHR (personal health record) のご紹介

県病では、令和4年11月28日からPHRサービスを開始しており、登録者数は2,000名を超えています。PHRとは、パーソナル・ヘルス・レコードの略語で、健康診断結果や服薬の履歴など、個人の健康・医療に関する情報のことで、自分のスマートフォンで自分の健康・医療に関する情報をアプリ(当院ではNOBORIを採用)を使って管理します。

### 県病のPHRアプリでできること

- ・ 県病で処方されたお薬や検査結果、レントゲンやCTなどの画像の閲覧
- ・ 通院予定や通院履歴の閲覧や医療費の後払い(クレジットカード払い)
- ・ マイナポータルから取得した健診情報やワクチン接種情報の閲覧



※ 県病での医療情報を閲覧するためには、カルテと紐づけする必要があります。患者さんには、アプリのダウンロードと、診察券および運転免許証や健康保険証、マイナンバーカードなどの身分証明書をお持ちいただき、当院のアプリ受付窓口で登録をお願いしています。

### <イメージ画面>

#### CT・MRIなどの 画像情報



#### 血液検査の 結果

項目 [基準値, 単位]	結果	(前回結果)
WBC [3.3-8.6.x10 <sup>3</sup> /μL]	0.1	11.3
RBC [4.35-5.65.x10 <sup>6</sup> /μL]	2.42	3.61
HGB [13.7-16.8.g/dL]	8.0	7.9
HCT [40.7-50.1. %]	26.7	26.7
PLT [15.8-34.8.x10 <sup>4</sup> /μL]	1.8	32.6

PHRアプリで管理している情報は、遠隔地に住む家族に共有したり、当院以外の医療機関(かかりつけ医、かかりつけ薬局など)でも閲覧することができるため、県病での治療状況をより早く正確に伝えることができます。スマートフォンを所有していない子どもや高齢者の場合は、家族が代理登録することで家族が情報を管理することも可能です。

当院以外にも東青地域の複数の医療機関で、NOBORIの導入準備を進めており、ひとつのPHRアプリで健康・医療に関する情報を集約化できる利便性や、患者さん自身の情報コントロールによって効率的・効果的な医療連携を実現すべく関係団体等と調整を進めています。準備が整い次第、地域医療機関の皆様にも情報提供させていただきますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 各診療科の新任部長からのごあいさつ

### メンタルヘルス科

#### 部長 佐藤 靖 (さとう やすし)



いつも大変お世話になっております。2023年4月より秋田県大館市の大館市立総合病院精神科より転勤してきた佐藤靖です。現在も、診療制限など地域の先生方・患者様には色々お手数をおかけしております。私自身が、外来、リエゾン業務などをしながらPSW(MHSW)や精神科看護師などスタッフの力を借りつつ、無床総合病院精神科外来の限界を模索しております。

前任地の総合病院精神科でも、発達障害や不登校などの小児科、周産期・不妊などの産婦人科分野、認知症、老年期精神障害などの老年期などライフサイクル、癌や非癌（認知症、心不全、COPD、慢性腎不全・透析など）などの緩和領域、ペイン・心療内科領域、自殺企図・救急分野など各分野の中で、精神的・心理的な問題を抱えた様々な人々がおり、一定の精神科への期待とニーズがあることは痛感してきました。ただ、病棟や頼もしい同僚達がいた頃さえ応えきれず、自分なりに多少なり視野と知識を多少は広げてきたつもりですが、個人の努力やリエゾンや他職種連携だけで対応しきれないことも痛感してきました。

まずは、足下の再来を落ち着かせつつ、皆様のご意見やご指導を頂きつつ、院内・院外精神科および各科と効率的な病病・病診連携を図れる体制作りをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

### 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

#### 部長 長岐 孝彦 (ながき たかひこ)



この度前任の太田修司先生の後任として、耳鼻咽喉科頭頸部外科部長を拝命致しました、長岐孝彦と申します

2006年に弘前大学耳鼻咽喉科に所属して以降、半年～数年ごとに大学と当科を往復する日々でした。2015年頃には、いずれ太田前部長の後を引き継ぐ事を命じられておりました。特に頭頸部癌手術に対する自身の力不足は自覚しており、そのまま引き継ぐ事に大きな不安を感じておりましたところ、幸いにして吉田病院事業管理者はじめ多くの先生方の御厚意により、2017年より3年間、国立がん研究センター東病院頭頸部外科にて研修をさせて頂き、頭頸部癌手術を一通り学ぶ事が出来ました。2020年4月より2年半、弘前大学に勤務し、知識と技術を固めた上で、昨年10月に当院へ戻らせて頂いた次第です。とは言え、まだまだ自身の力不足を感じる日々です。耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の手術は多岐に亘り、当科では頭頸部癌はもとより、慢性副鼻腔炎や鼻副鼻腔腫瘍に対する鼻科手術、一般的な咽喉頭疾患や音声障害に対する再建手術、嚥下障害に対する誤嚥防止手術や嚥下機能改善手術、魚骨などの異物や外傷性疾患に対する手術などに対応しております。青森県においてこうした耳鼻咽喉科疾患に対する手術加療を行える施設は極めて少なく、当科も病床削減などの逆風に煽られつつも、耳鼻科領域の医療崩壊を防ぐ最後の砦としての役割を全うすべく努めて参る所存です。引き続き皆様のご指導、御鞭撻を賜ります様、何卒宜しくお願申し上げます。

## 脳卒中診療部

部長 上野 達哉 (うえの たつや)



今年度より脳卒中診療部部長に就任いたしました脳神経内科の上野達哉と申します。

近年では、血栓溶解療法や血栓回収療法などの治療の進歩もあり、初診時に重度の神経障害がある患者様でも治療介入によって改善する症例も増加しており、当院でも積極的に取り組んでおります。これらの治療は発症からの時間で適応が規定される側面があるため、脳卒中が疑われるような片麻痺や失語症などの新規神経症状がでる場合は迅速な対応が必要となります。また、急性期治療が進化している現代においても、いまだ神経障害の後遺症を抱えながらの生活を余儀なくされる患者様もおられます。脳卒中診療は急性期治療のみで完結するものではなく、生活習慣病を含めた脳卒中の二次予防、リハビリテーション、社会復帰支援、療養環境の調整といった慢性期における治療・管理までシームレスな連携が非常に重要と考えられます。

今後も引き続き皆様と力を合わせて脳卒中連携パスを含めた地域連携システムの充実をはかりたいと考えていますので、今後ともご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

### 「治療しながら働きたい」をサポートします！～お仕事相談のご案内～

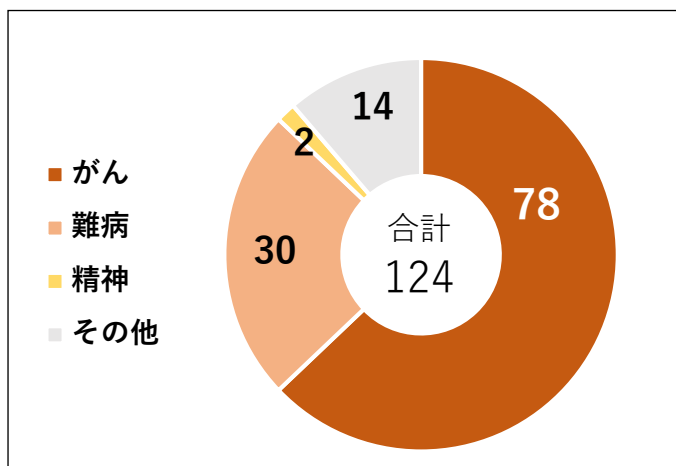
「治療しながら働きたい」、「体力的に不安があるけど、できる仕事を探したい」、「治療と仕事を両立していくことが不安だ」、「会社に病気のことを伝えた方がいいの？」そのような話を患者さんから聞かれることがあります。

病気になったことで生じる悩みごとはさまざまあり、生活に直結する仕事について悩む患者さんは少なくありませんが、「仕事の相談は専門の事業所でないとできない」「相談したくても、どうすればいいのかわからない」というイメージを持たれがちです。

医療連携部では、療養中の患者さんからの相談を受け付けています。少しでも患者さんの抱える就労問題を解決できるよう、治療と仕事のサポートをしています。相談内容によっては、ハローワークや産業保健総合支援センターなど、ご希望に沿える窓口の紹介や連携を行っており、予約制ですが出張相談の機会も設けています。

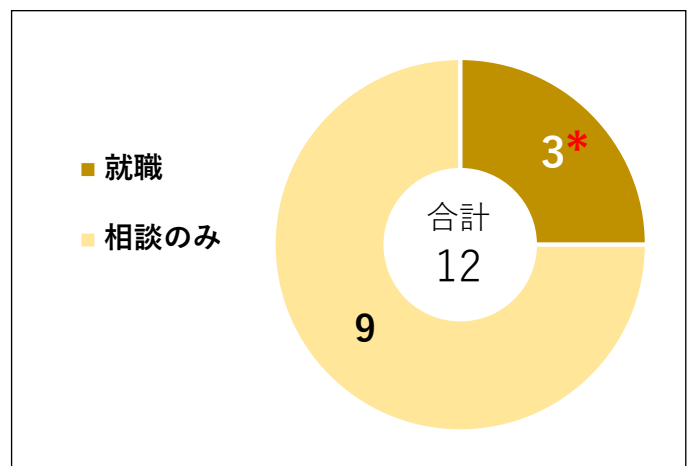
ハローワーク出張相談は、当院に通院していない方にもご利用いただけます。また病気の種類も問いませんので、病気と仕事で悩んでいる患者さんがいらっしゃいましたら、一度当センターへご紹介ください。

令和4年度 疾患別就労相談件数



その他：糖尿病、喘息、突発性難聴、髄膜脳炎など

出張相談後の就労状況



\* 就職した3名のうち2名は正社員雇用

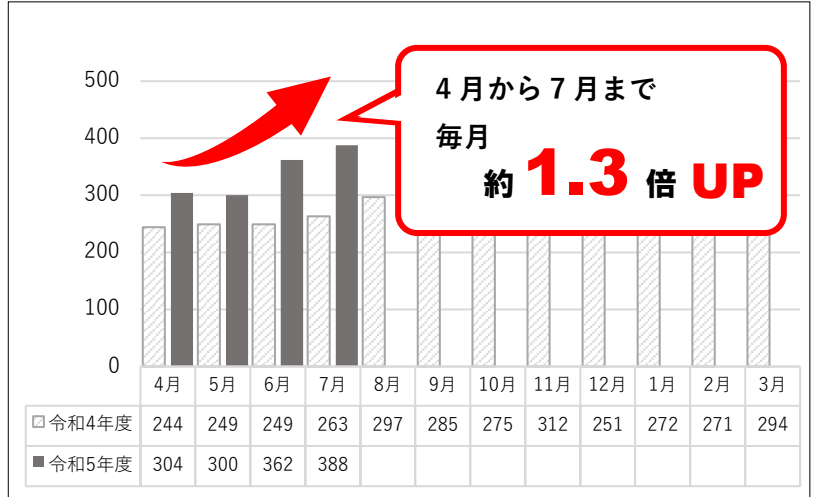


# 医療相談周知の取り組みの紹介

医療連携部には、患者さんやご家族、また患者さんに関わる医療者や介護福祉関係者等どなたでも利用できる医療相談窓口があります。相談内容に応じて関係機関の窓口の紹介や連携を図っています。より多くの方に利用していただくために、相談窓口の周知を強化する取り組みを始めました。昨年9月より、医療相談リーフレットを作成し、初診や初回入院時の患者さん全員に説明のうえ、配布しています。また今年度より、がんと難病の相談員が担当者カードを作成し、入院される患者さんや相談窓口に来られた患者さんにお渡ししています。

その結果、グラフで示すように医療相談件数は増加し、リーフレットや担当者カードを見て相談に来て下さる方が少しずつ増えています。県病に来られている多くの患者さんに医療相談の窓口を知ってもらうために今後も取り組みを継続していきたいです。そして、患者さんが困ったことや気がかりなことがある時だけでなく、「病気かもしれない」「病気になった」「治療が終わった」などの節目に、気軽に相談できる窓口にしていきたくと思っています。

医療相談件数の推移



## 医療相談リーフレットの紹介

### 医療相談

病気により、心配ごとや不安な気持ちなどを抱えている患者さんとそのご家族が、安心して生活を送れるように、私たちが支援させていただきます。

### 私たちがお話を聞きます

医療連携部では、看護師や社会福祉士などの相談員が、さまざまな病気に関連した相談に対応しています。

**ご家族からの相談もお受けしています。**

がんや難病についてのお悩みや困りごとなどの相談は専任の相談員が対応します。

がん相談支援センターと難病相談では、当院以外の患者さんからの相談もお受けしています。

### 不安に思っていることや聞いてみたいことはありませんか？

**Aさん 40代 男性**

一週間後に入院が決まった。主治医の先生から治療の内容は聞いたが、初めてのことで不安。仕事を休んでいる間や退院してからの経済面も心配。できるだけ経済的な負担を軽くしたい。入院する前に何か手続きできるものはないか？

**Cさん 30代 女性**

手術が終わり、退院に向けてリハビリを頑張っているところだが、高齢夫婦二人暮らしということもあり、戻ってからの生活をサポートしてくれる制度などがあれば教えてもらいたい。知り合いから、介護保険とか〇〇サービスというだけ聞いたことはあるんだけどなあ。

**入院予定の患者さん**

療養支援センターのスタッフが  
・入院の手続き方法  
・入院中の生活の説明  
などをご案内し、安心して入院生活を送れるように支援します。

入院前支援担当の看護師がご案内します。

薬剤師がお薬についてお話をうかがいます。

**入院中の患者さん**

療養支援センターのスタッフが病室に伺って、今後の療養生活についての相談などに対応します。

退院支援担当の看護師と社会福祉士が対応します。

ひとりで悩まず、私たちに安心して入院生活や療養生患者さんとそのご家族のお悩み

相談できる場所があることを患者さんにお知らせしています。

## 担当者カードの紹介

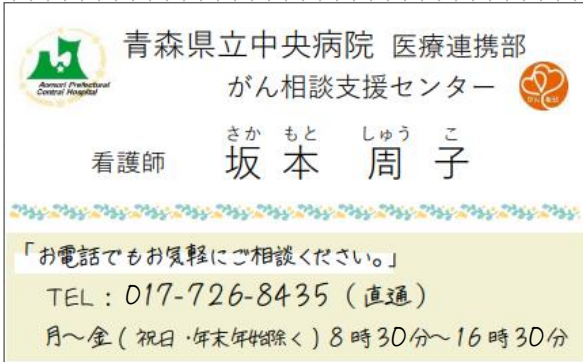
「どこに相談したらいいかわからない」などふとした時に見返していただけるように、名刺と相談窓口の周知を併せた二つ折りの担当者カードを作成しました。

「がん相談支援センター」と「難病相談」の担当者カードを紹介させていただきます。

### がん相談支援センター

### 難病相談

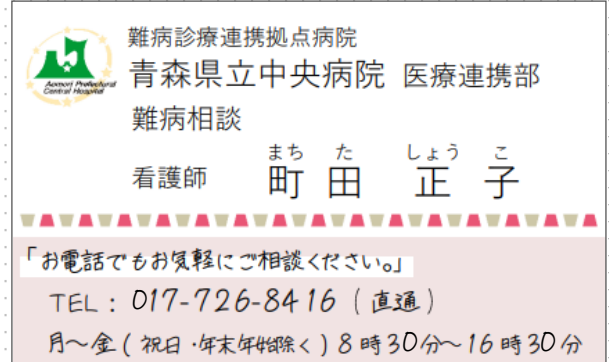
表面は相談員の名前と連絡先を掲載し、電話で相談もできることを知ってもらいます。



青森県立中央病院 医療連携部  
がん相談支援センター

看護師 さか もと しゅう こ  
坂本 周子

「お電話でもお気軽にご相談ください。」  
TEL: 017-726-8435 (直通)  
月～金(祝日・年末年始除く) 8時30分～16時30分



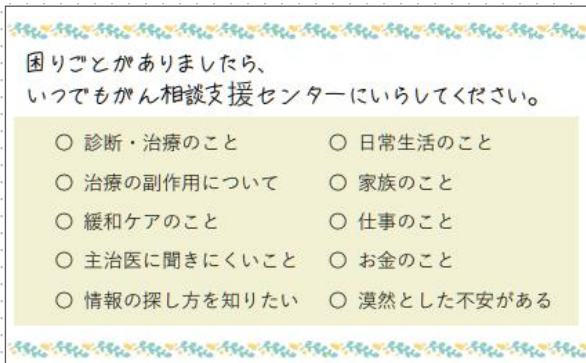
難病診療連携拠点病院  
青森県立中央病院 医療連携部  
難病相談

看護師 まち た しゅう こ  
町田 正子

「お電話でもお気軽にご相談ください。」  
TEL: 017-726-8416 (直通)  
月～金(祝日・年末年始除く) 8時30分～16時30分

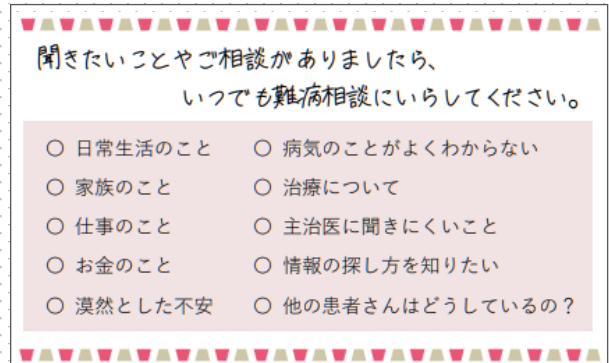
表面

裏面には、患者さんがどんなことで困っているか、何について聞きたいことがあるかなど「ここに相談してみよう」と思っただけのきっかけになる内容を掲載しています。



困りごとがありましたら、  
いつでもがん相談支援センターにいらしてください。

- 診断・治療のこと
- 日常生活のこと
- 治療の副作用について
- 家族のこと
- 緩和ケアのこと
- 仕事のこと
- 主治医に聞きにくいこと
- お金のこと
- 情報の探し方を知りたい
- 漠然とした不安がある

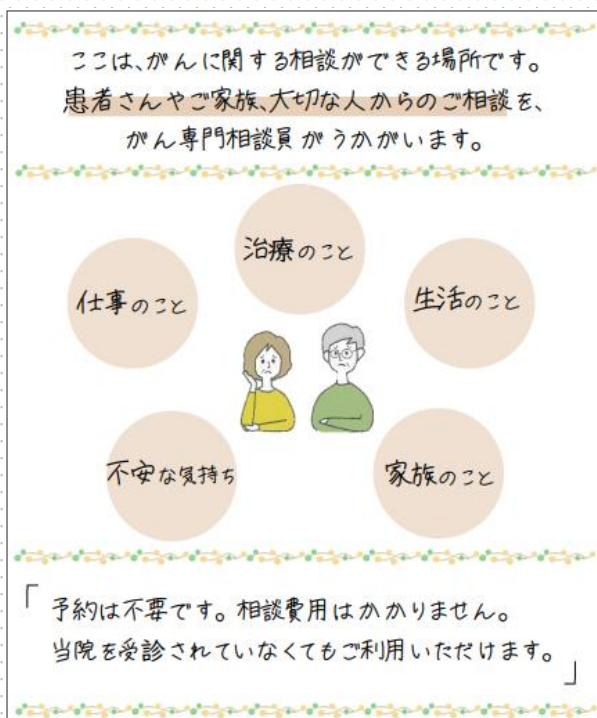


聞きたいことやご相談がありましたら、  
いつでも難病相談にいらしてください。

- 日常生活のこと
- 病気のことがよくわからない
- 家族のこと
- 治療について
- 仕事のこと
- 主治医に聞きにくいこと
- お金のこと
- 情報の探し方を知りたい
- 漠然とした不安
- 他の患者さんはどうしているの？

裏面

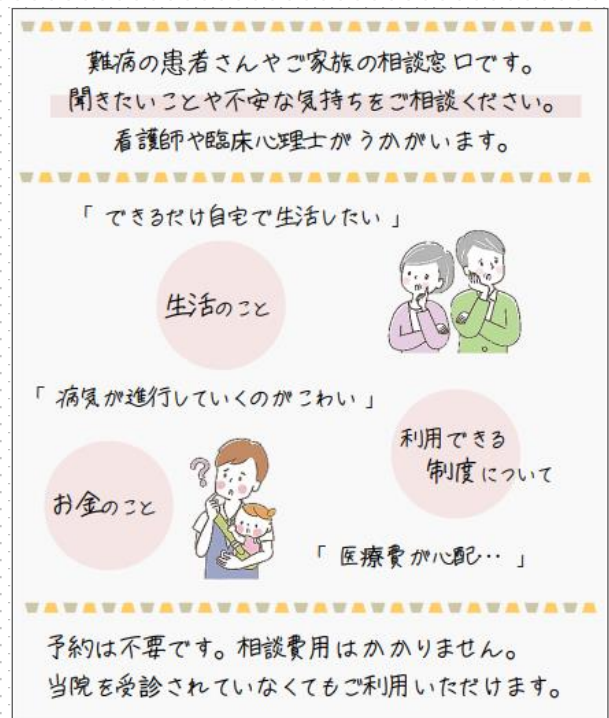
中面は、無料で相談ができることや具体的に相談内容を挙げられず「何を相談したらいいのかわからない」という患者さんでも気軽にお話ししていただけるように伝えています。



ここは、がんに関する相談ができる場所です。  
患者さんやご家族、大切な人からのご相談を、  
がん専門相談員がうかがいます。

仕事のこと 治療のこと 生活のこと  
不安な気持ち 家族のこと

「予約は不要です。相談費用はかかりません。  
当院を受診されていなくてもご利用いただけます。」



難病の患者さんやご家族の相談窓口です。  
聞きたいことや不安な気持ちをご相談ください。  
看護師や臨床心理士がうかがいます。

「できるだけ自宅で生活したい」  
生活のこと

「病気が進行していくのがこわい」  
お金のこと

利用できる  
制度について  
「医療費が心配…」

「予約は不要です。相談費用はかかりません。  
当院を受診されていなくてもご利用いただけます。」

中面

## 難病相談から各研修会のご案内

難病相談は、青森県から難病医療ネットワーク事業を委託され、研修事業等を運営しており、今年度の研修会をご紹介します。

### 難病医療ネットワーク 研修会（Web 開催） 対象：医療福祉関係者

6月30日、第1回難病医療ネットワーク研修会をオンラインで開催し、県内より99名の参加をいただきました。今年度はあと2回研修会があります。日時が決定しましたらホームページ上でご案内させていただきますので、是非ご参加下さい。

#### 「難病患者が利用できる制度やツールについて詳しくなろう！」

- (終了) 第1回：6月30日(金) 18:00～19:45 ～Part2. 難病と介護保険～  
第2回：9月27日(水) 18:00～19:45 ～Part3. 難病と障害福祉～  
第3回：11月下旬 or 12月上旬 18:00～ ～Part4. 難病とコミュニケーションツール～

※ 第1回～3回とも、難病医療費助成制度についての講義も行います。



6月30日に開催された第1回の様子

#### 第1回の研修会参加者の声

具体例があってわかりやすかった。

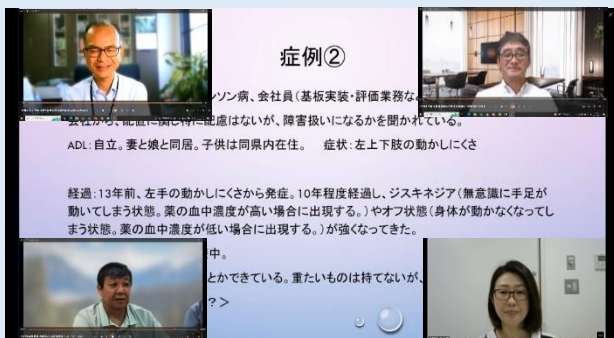
他職種とも連携して支援していきたいと思った。

### 難病就労支援者 研修会（Web 開催） 対象：難病患者の就労支援関係者

7月5日と12日には2週連続で、難病就労支援者研修会をオンラインで開催しました。5日は、産業医科大学の江口尚先生の講義、12日は医療関係者と会社経営者による事例検討を行いました。

#### 「難病患者の治療と仕事の両立支援 ～わたしたちができる支援を考えよう～」

- (終了) 7月5日(水) 17:30～18:45 「難病患者の就労支援のために支援者にできること」  
(終了) 12日(水) 17:30～18:40 モデル症例で「難病患者の両立支援」についての討議



7月12日のパネルディスカッションの様子

#### 研修会参加者の声

難病以外にも応用できる内容であり有意義だった。

事例検討会が実用的で勉強になった。



# スキルアップ研修会のご報告

医療連携部では、地域の医療従事者等との交流と自己研鑽を目的に、医療機関の医師、歯科医師、看護師、薬剤師などの医療従事者を対象に研修会を開催しています。

今回は、すでに終了した第1回、第2回の研修会について、ご紹介します。

## 第1回

開催日▶ 5月21日(火) 医師、看護師、薬剤師など41名参加

テーマ▶ 特定行為研修修了看護師の役割と今後の展開

### 講師



青森県立中央病院 診療看護師

救急部

中村 祐太

心臓血管外科

柳谷 和明

医療現場でのこんな悩みは、

診療看護師(特定行為研修修了者)の活用で解消することができるかも!

「医師の手術が終わってからの回診、指示受けで今日も残業だな…」(看護師)

「外来の診察、手術も終わったけど、今から病棟業務に書類仕事か…」(医師)

「痛みも熱もあるのに先生は夕方まで来てくれないし…」(患者)

そこで、今回の研修会では、急性期医療から慢性期、在宅医療までの活用の可能性は無限大の診療看護師について、その歴史・成り立ちから県病での実際の活動事例まで詳細に講義していただきました。

参加者に聞きました! 「講演を聞いて、診療看護師(NP)のイメージが変わりましたか?」

急性期から在宅まで多岐にわたり活躍されている事を知りました。多職種と連携し、サポートしているにもかかわらず、毎日が充実され、頼りにされているのだと感じました。

実際に行われている活動を知ることで多職種との調整役として活動しているイメージが伝わりました。

想像していたよりも業務が多岐にわたることに驚きました。

## 第2回

開催日▶ 7月18日(火) 医師、看護師、薬剤師等31名参加

テーマ▶ スキンケアをもっと知ればアピアランスケアが変わる

～隠す・着けるケアから療養期間を見据えたスキンケアを考えよう～

### 講師



セレナイト代表

さとう 桜子

第2回は、アピアランスケアのうちスキンケア(整容的な介入)をテーマに行いました。

講師は美容従事者で自らが、がん治療経験者であり、がん治療の副作用による外見変化で、患者が「何に戸惑い、何を想うのか」、治療中の外見ケアの工夫と、心の中に秘めた思いなど、様々な角度からの講義とともに、テクニックの知らないカバーの仕方を実践していただきました。

参加者から寄せられた感想

メイク方法、とても勉強になりました。

メイクアップではなく、メイクカモフラージュのお話に、“なるほど”と思いました。

日頃のスキンケアの大切さが良く分かりました。

ほかにも、医療者として患者さんへのアピアランスケアなどについて知りたい・学びたいなどの感想が寄せられました。



第3回は「在宅で食べる機能を取り戻す」をテーマに、9月19日(火)に開催します。みなさまのご参加をお待ちしております。

## 診療予約時のお願い

医療連携部では、初診患者さんの診療予約を行っております。診療予約をしていただくうえで、下記のとおりお願いしたいことがありますので、ご確認くださいようお願いいたします。

- ・ 緊急性のある患者さんを紹介する場合は、紹介する診療科の医師と事前に相談の上ご予約ください。 それ以外の患者さんについては、受付順に診療予約を行っております。
- ・ 患者さんが予約をキャンセルまたは、日時の変更をしたい場合は、ご紹介いただいた医療機関から当院へ依頼してください。 病状などによっては、患者さんの自己判断によるキャンセルが病状の変化や今後の診療に影響する可能性があるため、医療機関よりご連絡いただきますようお願いいたします。
- ・ 患者さんが当院を受診する際は、診療情報提供書の原本が必要です。  
当院受診日当日は、必ず診療情報提供書をご持参いただきますようお願いいたします。

## 「患者さんへのご案内」について

当院へ患者さんをご紹介いただく際、受診日当日に患者さんにお持ちいただくものや、お知らせする内容について、事前に確認していただけるよう「患者さんへのご案内」をお渡しくださるようお願いしています。

- ▶ 詳しくは、右のQRコードを読み取っていただくか、当院ホームページのトップ画面から「医療関係の方」をクリックし、「患者さんのご紹介」のページをご確認くださいようお願いいたします。



医療機関におかれましては、

お手数をおかけしますが患者さんがスムーズに受診できるようにご協力をお願いいたします。



### 〈 再来予約の変更窓口の設置 〉

現在、当院では外来通院中患者さんが外来予約の変更やキャンセルをする場合に、外来診療業務を中断させないための取り組みとして、再来予約変更の連絡窓口業務を開始しています。現在は、内分泌内科のトライアル中ですが、今後は対応診療科を徐々に拡大する予定です。

なお、このトライアルは、あくまでも当院通院中の患者さんを対象としておりますので、新患の場合はご利用いただけません。

### 📞 お問い合わせ先

◎ 外来予約グループ	017-726-8377	患者さんのご紹介や診療予約など
◎ 療養支援センター	017-726-8307	入院前・退院後の療養に関する相談など
◎ 相談支援グループ	017-726-8177	療養中の仕事や生活、お金や制度のご紹介・相談など
◎ がん相談支援センター	017-726-8435	がんに関するわからないことや療養上の相談
◎ 難病相談	017-726-8416	難病に関するわからないことや療養上の相談
◎ 企画グループ	017-726-8493	広報誌や研修会などに関するお問い合わせ
◎ PHR 事業推進グループ	017-726-8432	PHR に関するお問い合わせ